

ガンコ親父の

ある所に松次郎という稲作農夫が住んでいた。秋の収穫時期になると決まって頭を抱えることが多くなってきた。近年、長雨や台風、日照り続きがもたらす水不足などで苦しめられていたのだ。多くの農民が米収穫量の減少に苦しみ、年貢を取り仕切るお城の役人たちの仕事にも悪影響を及ぼした。

もちろん城下町でも米の流通量が減り、店頭米価は一気に値上がり、町民の中には米食を止めて、蕎麦、うどんや芋を主食にしている者も多いという状況だった。

「殿様、大変です！お城の米蔵が荒らされています。ただでさえ貴重な米なのに、ネズミに食い荒らされるなんてショックです。ちゃんとネズミ対策もしていたのですが」と言い訳がましく、米蔵担当の役人が青い顔をして報告に来た。それを聞いた殿様は力無く首を振り、「仕方がない。こうなればもう、猫にでも頼るしかないだろう」。

藩の家老が松次郎の猫がネズミ取りの能力に長けているという情報を持ってきた。早速、城中に呼ばれた松次郎が連れてきたのは小柄なトラ猫だった。殿様は「それではネズミ退治頼んだぞ」と松次郎と強そうには見えない猫に向かって頭を下げた。

松次郎の猫は早速その夜から頑張った。重ねられた米俵の間に、気配を消してネズミを待ち伏せした。普通の猫より遥かに優れた気配消しの技術は、代々、忍者の里で育ったという特別な猫の血筋からの賜だった。移動する時だってどんなネズミにも気づかれることはないのだ。

その夜、米蔵に忍び込んだネズミたちは、いきなり闇の隙間から現れた猫に急襲されたのだった。八重歯で咬まれたり、猫パンチで顎を骨折させられたネズミたちは命からがら退散した。ネズミの巣に帰り着くと、すぐに仲間のネズミたちに報告。

その後、血気盛んな若いネズミたちも、鼻息荒く米蔵荒らしに参加したが、みんな悲惨な姿で帰ってくるようになった。ネズミたちもこのままでは敗退を繰り返すだけだということがわかった。学習能力の高いネズミたちは、なんとか状況を打開せねばと、みんなで考え抜いたが、何せ相手は気配を消しているの、どこから現れるかわからない。

一匹のネズミが「猫の首に鈴をつければ、その鈴の音で居場所がわかるのではないか。逃げるなり何なりと手が打てるので」とアイデアを出した。それはノーベル賞クラスの発案だなど、集まっていたネズミたちは拍手喝采。しかし、

一番後ろにいた子ネズミが「良い案だと思いますが、でも誰がその猫の首に鈴を付けるのですか？」と素朴な質問をした。その場が一瞬にしてシーンと静まり返ってしまった。優れた知力を持つネズミたちも、残念ながらそんな勇氣だけは持ち合わせていなかったのだ。

任務を無事果たすことができた松次郎と猫は、お殿様から感謝の言葉と褒美の品が与えられた。松次郎には何より嬉しい

「しまっちゅ伝蔵」、猫には小判よりよからうと「鯉節」が配られた。削節に猫はにや〜と喜んだが、

松次郎は小判への未練を振り払わなくてはならなかった。ま〜いいか、猫は嬉しそうだし。



しまっちゅ
伝蔵
でんぞう

奄美黒糖焼酎

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の肥沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251



25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造(株)はこの活動を応援しています。



「猫の褒美」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。